

評価機構

2018

9

月号

NEWS LETTER

特集

医療事故情報収集等事業
事例の収集から医療安全情報の提供まで



人の安心、医療の安全 JQ
公益財団法人 日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care

病院機能改善支援セミナー【総合】の開催 (評価事業推進部)

評価事業推進部では、病院機能評価の受審準備支援を目的に、「平成30年度 第2回病院機能改善支援セミナー」を日本医師会にて開催し、約350名の方々にご参加いただきました。

本セミナーでは、評価機構常務理事の橋本廸生より、「3rdG:Ver.2.0の概要」を説明し、続いて「3rdG:Ver.2.0の項目体系のポイント」について、診療・看護・事務管理の各サーベイヤーより、各領域の視点から説明しました。また、医療法人社団一成会 たちばな台病院からは、病院機能評価の受審準備の体験談を発表いただきました。

全体を通して「各領域のポイントがよく分かった」「病院機能評価について深い理解を得られた」という感想を数多くいただきました。

本セミナーの次回開催については、2019年1月16日(水)に大阪にて開催する予定です。

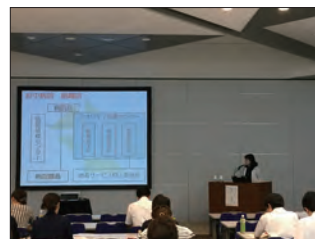


患者満足度・職員やりがい度についての講演の開催 (評価事業推進部)

7月13日(金)に東京ビッグサイトで、日本病院会・日本経営協会主催「国際モダンホスピタルショー」において有料カンファレンスを行い、約70名の方にご参加いただきました。

プログラムでは、評価機構執行理事の長谷川友紀が、「医療の質向上につながる病院機能評価と＜患者満足度・職員やりがい度調査＞の有効活用」と題して、2018年度より開始した「機能種別版評価項目: Ver.2.0」と「患者満足度・職員やりがい度調査 活用支援プログラム」の概要について講演しました。また、社会医療法人生長会 府中病院の野村真美氏、社会福祉法人 農協共済別府リハビリテーションセンターの吉村憲人氏に、満足度調査を活用した質改善活動の事例を発表いただきました。

「患者満足度・職員やりがい度調査 活用支援プログラム」については、9月26日(水)よりセミナーのWeb配信を行う予定です。詳細は病院機能評価事業ホームページの「イベントカレンダー」をご覧ください。



評価調査者(サーベイヤー)の募集 (評価事業審査部)

病院機能評価事業における評価調査者(サーベイヤー)を募集します。サーベイヤーは、病院機能評価の訪問審査を担当する調査者です。医療の質改善にご興味のある皆様のご応募をお待ちしております。

応募受付期間: 9月25日(火)～10月12日(金)

応募資格: ①院長・副院長・看護部長・副看護部長・事務長・薬剤部長・医療安全管理者等の経験者
②65歳未満など *応募資格の詳細は、募集案内を必ず確認ください。

選考方法: <1次選考>書類審査、<2次選考(1次選考通過者)>選考・研修会(3日間)

応募書類: ①所定の応募用紙、②小論文

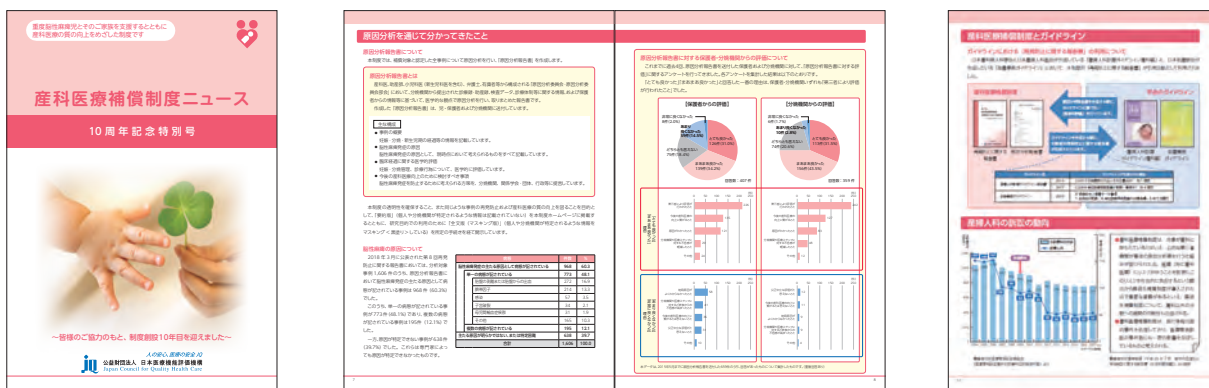
募集案内・応募書類: <https://jcqhc.or.jp/recruitment/>

問合せ先: 評価事業審査部サーベイヤー養成課

メールアドレス: infosvr@jcqhc.or.jp

「産科医療補償制度ニュース 10周年記念特別号」の発刊 (産科医療補償制度運営部)

産科医療補償制度は今年で創設10年目を迎えたことから、これまでの取組み等を取りまとめた「産科医療補償制度ニュース 10周年記念特別号」を発刊しました。この中では、本制度のこれまでの歩みを振り返り、審査・補償・原因分析を通じて分かってきたことや制度の変遷等を紹介しております。本制度ホームページにも掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



Mindsガイドラインライブラリの新規掲載 (EBM医療情報部)

EBM普及推進事業(Minds)では、診療ガイドラインやその関連情報を紹介するMindsガイドラインライブラリを運営しています。2018年7月には、8件の診療ガイドラインを新規掲載しました。ぜひご利用ください。

- ・関節リウマチ治療におけるメトトレキサート(MTX)診療ガイドライン 2016年改訂版
- ・アルポート症候群診療ガイドライン 2017
- ・産婦人科診療ガイドライン 一産科編2017
- ・産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編2017
- ・疥癬診療ガイドライン(第3版)
- ・原発性局所多汗症診療ガイドライン 2015年改訂版
- ・小児消化器内視鏡ガイドライン2017
- ・腎癌診療ガイドライン 2017年版

Minds ガイドラインライブラリ



(<https://minds.jcqh.or.jp/>)



医療安全情報の公表 (医療事故防止事業部)

医療事故情報収集等事業では、以下の医療安全情報を提供しました。

- No.140「腫瘍用薬の総投与量の上限を超えた投与」(7月)
- No.141「検査台からの転落」(8月)

詳細は、ホームページをご覧ください。
<http://www.med-safe.jp/>



No.140 (1 ページ目)



No.141 (1 ページ目)

医療事故情報収集等事業 事例の収集から医療安全情報の提供まで

医療事故防止事業部 部長
坂口 美佐

1. はじめに

医療事故情報収集等事業は、医療機関から医療事故情報やヒヤリ・ハット事例を収集し、分析、提供することにより、広く医療機関が医療安全対策に有用な情報を共有するとともに、国民に対して情報を提供することを通じて、医療安全対策の一層の推進を図ることを目的としています。本事業は、医療機関から報告された事例をもとに、報告書・年報や医療安全情報を作成し、参加医療機関等に送付するとともにホームページに掲載しています。

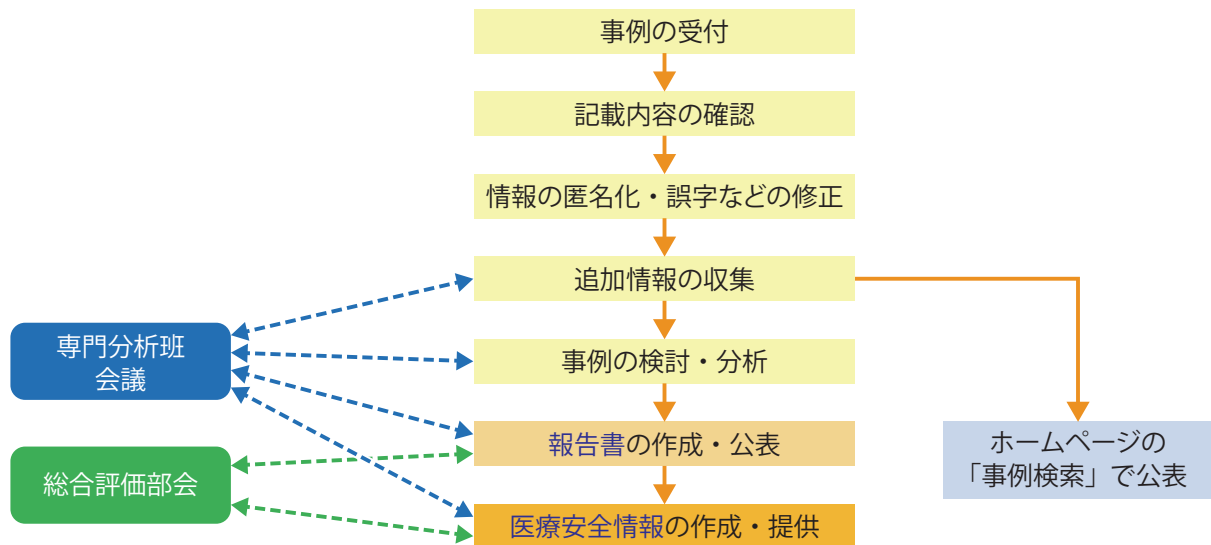
今回は、2018年8月に公表した医療安全情報No. 141「検査台からの転落」を例として、事例の収集から医療安全情報の作成・提供までの流れをご紹介します。

2. 事例の収集

医療事故情報として報告いただく事例の範囲には、過誤の有無や影響の大きさにはかわらず、医療機関内における事故の発生の予防および再発の防止に資する事例が含まれています。医療事故情報の報告件数は増加傾向にあり、2017年には過去最高の4,095件の報告をいただきました。

報告いただいた事例は、事務局スタッフが目を通し、打合せを行って、事例内容の確認や、以前に報告書や医療安全情報で取り上げたテーマの再発・類似事例に該当するかなどの検討を行います。また、集計表に反映される情報や、事例の分析に必要となる背景・要因などを確認するため、文書で問い合わせを行っています。さらに、詳細な事例の経緯や報告後に院内で取り組んでいる改善策などを教えていただくため、ご協力いただける医療機関には現地状況確認調査（訪問調査）を行っています。現地状況確認調査の概要は本事業の年報に掲載しています。また、報告いただいた医療事故情報は、情報を匿名化し、医療安全の推進を目的として公表しており、本事業ホームページの「事例検索」で検索・閲覧・ダウンロードができます。

〈事例の受付から医療安全情報の提供まで〉



3. 報告書の作成・公表

本事業では、四半期毎に報告書を作成、公表しています。報告書には、「分析テーマ」や「再発・類似事例の分析」を掲載しています。

第50回報告書の分析対象期間（2017年4月～6月）に、心臓カテーテル検査中に患者が検査台から転落した事例が1件報告されました。このような事例は、どの医療機関でも起こり得る医療事故であり、患者に与える影響も大きくなる可能性があることから、情報の共有が重要です。そこで、第50回報告書では「検査台からの転落に関連した事例」を取り上げ、過去の事例も併せて分析を行いました。転落が起きた検査や治療・処置の種類などを整理し、主な事例の内容、背景・要因や事例が発生した医療機関の改善策を紹介しました。検査台から転落したことにより頭部に外傷をきたした事例など、患者へ与えた影響が大きい事例が報告されていました。第50回報告書は、専門分析班会議、総合評価部会で検討した後、2017年9月に公表しました。

検査台からの転落に関連した事例（第50回報告書）
患者への影響と行った治療・処置

患者への影響		行った治療・処置
頭部	外傷性くも膜下出血	昇圧剤投与、気管挿管し人工呼吸器装着
		I C Uに入室し、経過観察
		脳外科にコンサルト、保存的に経過観察
	後頭部に皮下血腫 一部外傷性くも膜下血腫を疑う所見	経過観察目的に入院
	硬膜外血腫	硬膜外血腫除去術
	硬膜下血腫	保存的に経過観察
下肢	側頭部からの出血	用手圧迫止血、ガーゼ保護
	大腿骨頸部外側骨折	観血的整復術
	大腿骨転子部骨折	入院

4. 医療安全情報の作成

本事業は、特に周知すべき情報をわかりやすく注意喚起するため、医療安全情報を毎月1回提供しています。医療安全情報は、忙しい現場の医療者にも手軽に目を通していただけるようにイラストや表を掲載し、A4サイズ2枚のコンパクトな内容にまとめています。

第50回報告書で取り上げたテーマ「検査台からの転落に関連した事例」は、さらに広く周知するため、医療安全情報を作成することにしました。2018年1月に作成の準備を開始し、まずタイトルやメッセージの案を作成しました。表とイラストを載せる構成にして、行った検査や治療・処置の種類と事例の件数を示す表と、事例のイメージを示すイラストを掲載することにしました。イラストは、大まかな絵コンテや写真などをもとに外部の業者に依頼して作成しています。また、2ページ目に掲載する紹介事例と医療機関の取り組みを報告事例の中から選び、文章を作成しました。

こうして作成した医療安全情報（案）を専門分析班会議で検討し、イラストは診療放射線技師が画面を見ていて患者の転落に気付いていない場面になるように修正しました。医療安全情報の中には、事例が発生した医療機関の取り組みを紹介することに加えて、「総合評価部会の意見」が掲載されているものがあります。総合評価部会で検討した結果、「転落する危険性のある検査の際は、安全確保のため、患者に説明し身体を固定する」という意見を掲載することになりました。完成した医療安全情報No. 141「検査台からの転落」は、2018年8月に公表しました。

当初の案



専門分析班会議に提出



完成版



医療安全情報の構成



5. 医療安全情報の提供

医療安全情報は、毎月1回ファックスで提供するとともに、本事業のホームページに掲載しています。現在、本事業に参加している医療機関やファックス配信を希望した病院など約6,000の医療機関に医療安全情報を送付しています。医療機関では、医療安全情報を職員で回覧したり、関係部署に掲示したりして、情報の周知が行われています。医療安全情報は、本事業のホームページに掲載していますので、医療機関以外の方でも閲覧・ダウンロードをしていただくことができます。（<http://www.med-safe.jp/contents/info/index.html>）

6. おわりに

医療安全情報は、2006年12月の提供開始以来、多くの医療機関でご活用いただいています。本事業は、医療機関から報告いただいた事例を基盤として、医療事故の発生予防や再発防止のため、有用な情報提供に取り組んでいます。今後も、様々なテーマを取り上げて医療安全情報を提供していきますので、ぜひご覧ください。

Information

各イベントの申し込み方法、詳細については評価機構のホームページのイベント情報をご覧ください。開催日の概ね2か月前よりお申し込みの受付を開始します。

<https://jcqhc.or.jp/> 日本医療機能評価機構 ▶ ホーム ▶ イベント情報

イベント情報 9月～2月

9月	13・14日	第2回医療クオリティ マネジャー養成セミナー (1・2日目)
	19日	第1回患者満足度・職員やりがい度調査活用支援セミナー
	20日	医療対話推進者養成セミナー 導入編 日程2
	23・24日	第4回医療安全マスター養成プログラム day1・day2
10月	10日	平成30年度(第16回) 病院医療機能評価受審フォーラム(滋賀県病院協会主催)
	13日	患者安全推進地域フォーラム(奈良開催)
	18・19日	第2回医療クオリティ マネジャー養成セミナー (3・4日目)
	27・28日	医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程D
	30日	平成30年度 病院機能評価受審支援セミナー および個別相談会(静岡県病院協会主催)
	30日	第9回医療政策勉強会
11月	10・11日	医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程E
	27日	病院機能評価 受審支援セミナー (愛知県医療法人協会主催)
12月	13・14日	第3回医療クオリティ マネジャー養成セミナー (1・2日目)
	22・23日	医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程F
1月	16日	2018年度 第3回病院機能評価改善支援セミナー【総合】(大阪開催)
	26・27日	第3回医療クオリティ マネジャー養成セミナー (3・4日目)
2月	9日	医療対話推進者養成セミナー 導入編 日程3 (山口開催)
	10・11日	医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程G (山口開催)
	16・17日	第5回医療安全マスター養成プログラム day1・day2

詳細は順次掲載されるホームページをご覧ください。

■第9回 医療政策勉強会

[テーマ]「医療とAI・テクノロジーの未来を考える」

最先端テクノロジーの現状、海外事例をご紹介します

[日 時] 10月30日(火) 18:30～20:00

[演 者] アイリス(株) 代表取締役 冲山翔氏

[定 員] 先着80名(定員になり次第締め切り)

[対 象] 医療者・病院関係者

[会 場] 評価機構(東京都千代田区)

[申 込] 評価機構ホームページイベント情報よりお申し込みください。

[参加費] 2,000円(事前振込み制)

[問合せ] 総務部情報企画課 (03-5217-2320)

患者安全推進ジャーナルのご案内

評価機構の認定病院患者安全推進協議会が9月末に発行を予定している機関誌です。No.53の特集は「地域連携の実際と、その可能性」です。

バックナンバーの一部は、認定病院患者安全推進協議会のホームページで公開しています。

●会員病院(1,000円+税)

会員病院には毎号3冊を無料で送付しています。追加購入をご希望の場合は、認定病院患者安全推進協議会のホームページより会員サイトにログインのうえ、お申し込みください。会員価格となります。

●会員外病院(3,000円+税)

評価機構ホームページ>出版・ダウンロードからお申し込みください。

認定病院の改善事例紹介シリーズ「Improve」のご案内

認定病院の改善事例紹介シリーズ「Improve」(リーフレット)では、病院機能評価を活用して改善に取り組んだ病院の事例を紹介しています。同封したVol.14では、特定医療法人茜会 昭和病院を取材しました。病院機能評価の「期中の確認」を活用し、継続的な改善活動と、地域に求められる医療を提供し続ける活動事例を紹介します。

今後の企画の参考のため、アンケート(表紙カラーと同じピンク色の用紙)にもご協力を宜しくお願い申し上げます。
〈バックナンバー: <https://www.jq-hyouka.jcqhc.or.jp/tool/improve>〉



編集後記

9月23日～26日にISQuaの国際学会がマレーシアで開催されます。今回のテーマは「Heads, Hearts and Hands: Weaving the Fabric of Quality and Safety」(知識、心、技術—質と安全の機を織る)です。

評価機構からは6演題が採択されました。世界各国の様々な質向上の取り組みを目の当たりにし議論できることを楽しみにしています。

評価機構

NEWS LETTER

2018年9月1日発行
(奇数月1日発行)

発行:公益財団法人日本医療機能評価機構(略称:評価機構)

発行責任者:河北 博文

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1丁目4番17号 東洋ビル

TEL:03-5217-2320(代) / (編集:総務部情報企画課)

<https://jcqhc.or.jp/> e-mail:info@jcqhc.or.jp

本誌掲載記事の無断転載を禁じます